

早雲だより

2024.2.15
第163号
歴史グループ早雲

第二七九回 歴史ハイキング 報告

歴史ある町並み『今井町』と

周辺の史跡を訪ねる

2024年1月28日(日)

はじめに

奈良と言えば古代のイメージが強いが、今回は中世から近世に栄えた「今井町」を中心に檀原考古学研究所付属博物館及び天皇陵2か所をめぐる歴史ハイキングを行ないました。

我々は近鉄畷御陵前駅に集合。参加者は27名です。今回は早雲スタッフのーさん、Tさんの担当です。恒例の井内講座からスタート。

「今井町」では3班に分かれてボランティアガイドさんに案内していただきました。また、天皇陵では当グループのMさんから天皇陵について楽しい解説をしていただきました。

散策コース

近鉄畷御陵前駅→檀原考古学研究所付属博物館→神武天皇陵→綏靖天皇陵→蘇武乃井→(今井町散策)→蘇武乃井→入鹿神社→大和八木駅

散策ガイド

※ホームページからの引用

檀原考古学研究所付属博物館

檀原考古学研究所が、1938年以来行ってきた発掘調査で出土した実物資料を中心に、時代別による当博物館の常設展示です。「目で見る日本の歴史」になっています。



(写真) 博物館内

神武天皇陵

神武(じんむ)天皇陵は畷傍山の北東のふもとに位置し、正式には「畷傍山東北陵(うねびやまのうしろのすみのみささぎ)」といえます。

「日本書紀」と「古事記」が伝えるところによると、初代天皇とされる神武天皇は、日向地方(現在の宮崎)から瀬戸内海を東に進んで難波(現在の大阪)に上陸しましたが、生駒の豪族長髓彦(ながすねひこ)に阻まれたため、南下して熊野へ回りました。そこで出会った八咫鳥(やたがらす)

に導かれて吉野の険しい山を越え、大和に入ります。周辺の勢力をしたがえた後最後に宿敵の長髓彦を倒して大和地方を平定されました。

そして、紀元前660年の1月1日に畷傍山の東南檀原宮(かしはらのみや)で第一代天皇として即位されました。



(写真) 神武天皇陵

綏靖天皇陵

神武天皇陵の北隣に第2代綏靖(すいせい)天皇の御陵が存在しています。

御陵名は、桃花鳥田丘上

陵(つきだのおかのえのみ
ささぎ)です。

綏靖天皇(すいせいいてん
のう、神武天皇29年 - 綏
靖天皇33年5月10日)
は、日本の第2代天皇。『日
本書紀』での名は神渟名川
耳天皇(かぬなかわみみ
のすめらみこと)。久史八代
の一人で、実在性について
は諸説ある。



(写真) 綏靖天皇陵

今井町風景写真

(写真順番に) 町並み、
旧米谷住宅、町並み、今
西家住宅、環濠跡、花菱



(右写真) 一氏撮影



今井町の歴史

一向宗の布教拠点として誕生。寺内町として発展

天文年間(1532~5

5、本願寺の今井兵部によ
つて建てられた称念寺が、
今井町の起りと言われて
います。農民などを門徒化
し、ここを拠点に一向宗の
布教を進めるためでした。
後には、諸国の浪人や商人
が集められ、町場を形成し
ました。このような町を寺
内町と言います。世は戦国
時代。攻撃を避ける為に、
周辺に濠と土居を巡らせ、
僧侶や門徒を守るための武
力が備えられました。見通
しのきかない筋違いの道路
や、九つの門跡がそれを物
語っています。

物と文化が、華やかに行き交
う、にぎやかな町に

この頃、天下統一を狙つ
ていた織田信長と一向宗は
敵対しており、各地で一向

一揆が起っていました。
本願寺の降伏に伴い、交流
の深かった堺の豪商や明智
光秀のとりなしで武装放棄
しました。その後は、商工
業都市として発展。俗に、
「今井千軒」「海の堺 陸の
今井」と呼ばれるほどにな
っていきました。、各地と
の交流も盛んになりました。
豊臣秀吉が、吉野詣での途
中に今井の茶室で接待され
たという記録もあります。

江戸幕府も一目置いた財力。

17世紀後半、五代將軍
綱吉の頃に幕藩体制が整つ
と、今井にも代官が置かれ、
幕府領として支配されまし
た。しかし、農村の多くが
20~30軒程度だった当
時、千軒もの家を有する
今井町は、破格の規模でし
た。しかも肥料・木綿・味
噌・酒などの取引も盛んな
うえ、大名相手の金融業者
も活躍しました。藩札と同
じ価値のある独自の紙幣

「今井札」も流通し、「大和の金は今井に七分」「金の虫干し玄關まで」と言われるほどに繁栄してしました。これほどの財力は、幕府にとっても大きな魅力であり、他とは違う支配体制で今井町を優遇しました。惣年寄や町年寄を置き、警察権などを与え、自治的特権を与えたのです。親戚以外の者を町内に泊めることを禁ずるなど、町独自の掟も決められ、自治自衛が徹底されました。

今井まちなみ交流センター（花薨）

今井まちなみ交流センター「華薨」（はないらか）は、今井町の南東に位置する建物で、奈良県の指定文化財となっています。明治36年（1903）高市郡教育博物館として建設され、昭和4年からは今井町役場として使用されていました。

今井まぢや館

本町筋の中央部に位置する18世紀初期頃の町家です。江戸時代は金物屋又兵衛（金又）の所有となっています。東側に「通り土間」、北端に「しもみせ」がある、いわゆる2列6室型の、今井町にある大型町家の基本的構造を持つ建物です。帳台構え、突止溝、あげ戸、煙出しなど17世紀後半から18世紀初期頃の手法がよく残っています。

旧米谷住宅

旧米谷家は中町筋北側に面し、平入りで立ちの低い町家です。屋号を「米忠」といい、金具商を営んでいました。江戸時代5代目忠五良の時期に相当繁栄したとみられ、主屋西北側に「むしき」を増築し、1849年（嘉永2）には内蔵・蔵前座敷（うちべら・くらまえやしき）も増設しました。また土間の隅はシモミセを取り、居室は珍しく5間取りです。裏庭に建つ土蔵は、

数寄屋（すきや）風の蔵前座敷（くらまえむしき）が付属しています。

今西家住宅

1566年（永祿9年）十市城主十市遠勝が一族を引き連れて今井に亡命した中の、河合権兵衛清長（後改め今西正冬）が今西家の5代目になります。大阪夏の陣の際に今井町の西端を守ったことから郡山城主松平忠明から今西を名乗るようにすすめられ、代々今井町の惣年寄の筆頭を務めた家です。建物は1650年（慶安3年）の建設で、八つ棟（やつむね）造りとも言われています。本瓦葺、堂々とした城郭風の外観です。居室と土間境には式台（しきだい）があり、土間をお白州に見立てて簡単な裁きも行われました。

入鹿神社

神社の伝えによると、乙巳の変（645年6月12日）で蘇我入鹿公が飛鳥板

蓋宮で中大兄皇子や中臣鎌足らに倒された頃、小綱町は隣町の曾我町の領地だったので、蘇我入鹿公は入鹿神社あたりで幼少期を過ごした家があったとか、入鹿の母が身を寄せた家があったとか伝わる。蘇我氏とはゆかりの深い一帯だ。



（写真）入鹿神社

一口感想

M・S

今井町の町並みをボラティアさんのユーモアありのわかりやすい説明で楽しく歩くことができました。

住んでおられる方も保存されている。行政の姿勢にも頭が下がります。いつまでもこの景観を保存していただけのように思いました。またゆつくりと来てみたいと思います。あしがとうございませう。

◇◇◇◇

K・M

以前にも今井町を訪ねたことありましたが、風情のある町並み、いかにも豪商のお屋敷を眺める程度でしたので、今回ボラティアガイドさんの説明もあり、また資料を読ませて頂き、「重要伝統的建造物群保存地区」今井町を深く感じることができました。有難うございました。

◇◇◇◇

M・O

「日本に京都があつて良かった」と言われることがありますが、「今井町が残っていて良かった」と思う人もいます。たぶん日本のボ

ランティアガイドさんのように熱く語る人に案内されると今井町ファンは増えるでしょう。神武天皇陵を説明してくださった村田さんのお話もよかったです。歴史を「真」か「偽」ということにごだわることも大事だと思います。

◆◆◆
Y・M
◆◆◆

今回は、私が話させていだだいた内容を要約させていただきます。神武天皇の墓の場所は「古事記」と「日本書紀」では違っています。綏靖天皇の墓の場所も同様です。記紀に書かれた陵墓の地名が現在のどこに当たるか定かではありません。

幕末の国学の発展により、神武天皇の墓が適当に造成され、明治政府がそれを受けついでと思われます。

2代綏靖からの代開化については記紀による具体的な業績の記述はなく、いわゆる天竺史8代とよばれる

ているので、実在の可能性は低いと思われます。

10代の崇神天皇からが実在した天皇と言われています。ただ真実はわからないというのが本当のところではないかと思ひます。今回は私の話を聞いていただきありがとうございます。また、機会があればお話をさせていただきます。

◆◆◆

H・M

数十年前に個人的に、パンフレット片手に今井町を巡ったことはありましたが、今回は、ボランティアガイドさんのユニークなジョークを混ぜながら案内で「大和の金は今井に七部」、「金の虫干しは玄関まで」と言われるほどの繁栄ぶりでこれだけの規模を誇る江戸の町並み発展したのも確かに納得。

映画やドラマのロケ地としても使われるところで、本木雅弘と宮沢りえが農家風の町家の縁側に座ってお茶のCMの撮

影があったと案内されたが、そんなシーンのCMがあったけ…。

【井内講座】

クイズ涅槃図

お釈迦様の涅槃図からの問題です。

問1) まず、お釈迦様の誕生について。

なぜお釈迦様は、母親であるマヤ夫人の右脇からお生まれになったのでしょうか？

問2) お釈迦様が四門出遊で見られた四苦八苦とはどのような苦しみでしょうか？

問3) 平家物語の冒頭の、「祇園精舎の金の音、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色・・・」さて、京都市内で涅槃図に描かれている沙羅双樹を見ることが出来るでしょうか？

問4) この寺は漢字です。さて何と読むでしょうか？



【編集後記】

皆さまありがとうございます。

井内講座解答

問1) 釈尊の前世は兜率天(次世代のフッタである)はフッタの後継者が住む世界)における菩薩であり、そこから場所や親となるべき人物を入念に選り、自身の意志によって、白象に化身して、マヤーの右脇から胎内に入りこみ、そして右脇から産まれたといひます。

問2) 非常な苦しみ。また、あらゆる苦しみ。仏教で、生(しょう)・老(らう)・病(びやう)・死(し)の四苦に、愛別離(あいりぞ)・怨憎会(おんぞうかい)・求不得(もとめず)・五陰盛(ごいんじやう)の苦の四苦を加えたおんじやうの苦の四苦を加えた言葉。

問3) 出来る

問4) ほんのう

問5) どうしてか

問6) ちち

